

シトラスリボンの制作に取り組む水引ガールズ。(左から)山形さん、村上さん、近藤さん

感染者・医療従事者差別解消へ

水引でシトラスリボン

小中生ユニットが動画

結び方分かりやすく解説

四国中央

水引のアクセサリ作家として活動する四国中央市の小中学生ユニット「水引ガールズ」が、新型コロナウイルスの感染者や医療従事者らへの差別解消を目指す「シトラスリボン運動」に賛同し、このほど運動の意思表示として衣服などに付けるシトラスリボンの作り方を動画投稿サイト「ユーチューブ」に配信した。

(1面参照)

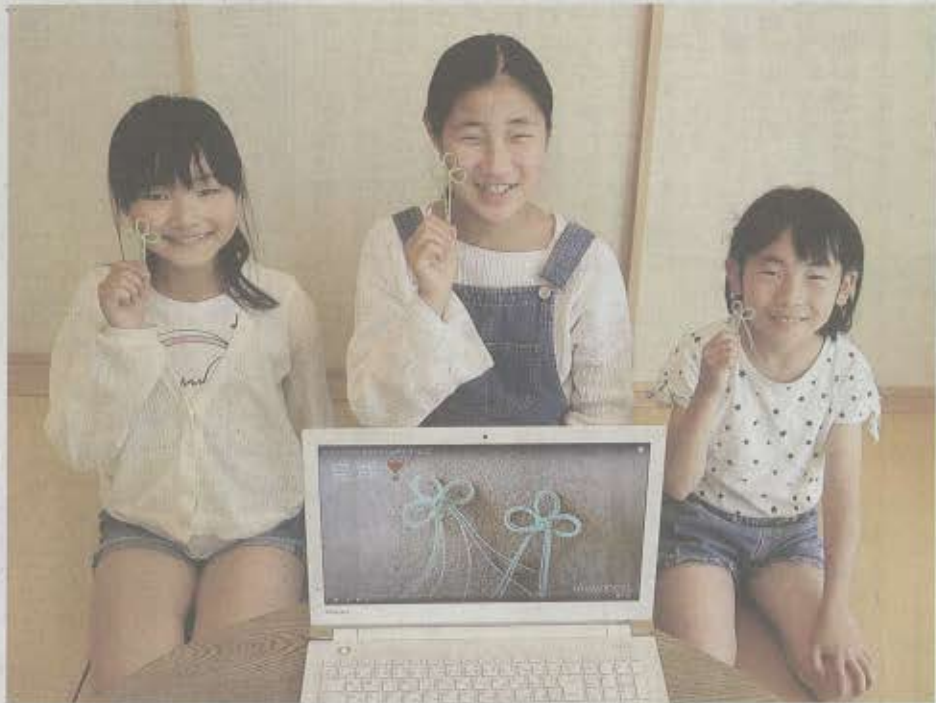
水引ガールズは2018年に結成し、現在は3人が所属。県内外でワークショップを開き、幼児からお年寄りまで幅広い層に結び方を手ほどきしたり、要望に添うアクセサリを作ったりしてきた。



動画作成は最年長メンバーの村上真風羽さん(13)＝三島南中学校2年＝が運動をサポートする人からの呼びかけに応じた。「感染者や病院で働く人の立場を考えたことがなかった。こないだいい活動に水引で役に立っているのがうれしかった」シトラスリボンは3本の淡い緑の水引を使い「1叶結び」で三つの輪を作る。村上さんに

いたりテロップを入れたりしながら丁寧に解説。小学生と中学生の息子2人と視聴して制作した市内在住の40代の女性は「一分かりやすかった。子どもたちも納得いくものができて喜んでいたら話した。村上さんはメンバーの山形かなさん(9)＝長津小学校4年＝と近藤悠実さん(8)＝土居小学校3年＝に結び方を伝え、運動を広げていく考えだ。

シトラスリボン運動を提唱する市民グループ「ちよびっと19+」のメンバー、甲斐朋香松山大准教授は「水引には人と人を結び役割があり、運動のコンセプトとリンクする。次代を担う子どもが運動を手伝ってくれて頼もしいと歓迎している。」(雲出浩二)



メンバーにシトラスリボンの作り方を教える村上さん(左)